

【協力協定書調印に至る経緯】

2019年度の文化祭において、当校文化祭の名物だったカレー販売を復活させようと奮闘中だった家庭研究部を応援すべく、吉山校長が宮丸さんにカレー創作の監修を依頼しました。これは、宮丸さんが経営されているお店が、2年に渡りカレーイベントでグランプリを受賞された実績をお持ちで、その宮丸さん自身も当校の評議員をお務め頂いた経歴がお有りになった事に起因したものでした。

その後、新型コロナウイルスの感染が拡大し、唐津においても影響が広がる中、宮丸さんは、地域の生産者や事業者の方々が互いの情報を共有し、地域内の相互需要が増すような自助努力的な活動を始めたいとの想いで「未来ギフト実行委員会」を設立されました。

活動の中で、インターネットを介しての情報発信に、宮丸さんが苦慮しておられた際、吉山校長の助言で、当校写真部の有志が、未来ギフト実行委員会の広報活動のお手伝いをさせて頂く事になりました。

自分の仕事とは異なる社会課題に汗を流す大人たちの姿を目にし、当時の生徒たちは、その困難さと満足感の両方を体験する機会を得ました。生徒たちの一部には、未来ギフト実行委員会の活動に触発され、第4回さがさいこう！企画甲子園において「馬渡島ゲンコウ復活プロジェクト」を発案するに至り、この企画は当校写真部やボランティア部の有志と未来ギフト実行委員会の協働プロジェクトに発展し、その活動は現在も継続中となっています。また協働事業はそれに止まらず、「からつ応援弁当」や「からつ応援市場」の実施へと発展し、当校生徒の間でも学年を経て繋がりや広がりを見せながら現在に至っています。

コロナ禍に端を発した社会課題に、世代や社会的立場を超えて取り組む実例を積み重ねてきた唐津西高等学校と未来ギフト実行委員会の関係性を、唐津地域の活性化のため、今後とも継続、発展させていきたいとの想いが合致し、本日、唐津西高等学校生徒会代表、学校長並びに未来ギフト実行委員会代表が協力協定書に調印する運びとなりました。